練馬区立大泉中学校　　学校だより

中 大泉

「人は学ぶ」
「人は変わる」
「人は輝く」

９月号
令和４年９月１０日
発行者　新村　紀昭
編　集　菊池　知裕

充実した２学期に向けて

自分を見つめて

２学期が始まり 10 日あまりが経ちましたが、大変落ち着いた学校生活を過ごすことができています。

始業式では、相田みつをさんの詩を紹介しました。

> 花はただ咲く ただひたすらに
> ただになれない人間のわたし

そして、この詩の意味は、道端に咲く花などは、誰も見る人がなくても、ただ美しく ひたすらに懸命に咲いている。そうした花と比べて、ただ（ひたすらに）生きられない人間の私がいるということ、様々な誘惑や損得などに左右され、まっすぐに一生懸命に生きることの難しさを言い表しているのだろうと話しました。皆さんの中にも、計画どおりに夏休みが過ごせた人と、なかなかうまくいかなかった人がいると思いますが、心機一転させて、できることから少しずつ取り組みましょう。

また、2学期は1年間で最も期間が長く、学習面では定期考査が2回行われ、修学旅行や合唱コンクール、職場体験等の学校行事、練馬区の連合行事なども予定されており、最も学校が活気づく学期だと話しました。

この10日間の学校生活の様子を見ていて、1年生は夏休み中に行われた English Summer Camp を経て、心身共に中学生らしくなったと感じます。2年生は生徒会役員選挙に象徴されるように、3年生から大中の伝統を引き継ぎ、学校の中心となるという強い自覚が感じられます。3年生は、先日の小学6年生向け部活動見学会もそうでしたが、案内役の2年生をしっかりとフォローし、最上級生としての存在感を示しています。

さて、この夏季休業期間中に文部科学省が実施した全国学力学習状況調査（国・数・理 3年生対象）と、東京都が実施した学力の向上を図るための調査（5教科 意識調査　全学年）の結果が示されました。

全国学力調査の結果は、全教科とも国・都平均正答率を5～10ポイント上回っていました。また、正答率と意識調査、本校の1学期の評価評定の相関関係を見ると、正答率の高い生徒は、生活面では、規則正しい生活やスマートフォンを使う時間が1時間より少ない、あるいは全くしないという傾向がみられました。また、学習面では、授業中、課題解決の場面で、自分で考え、自分から取り組む姿勢や、各教科で学んだことを生かして自分の考えをまとめる姿勢、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出そうとする姿勢が強いという傾向もみられました。

東京都の意識調査では、5教科の授業理解度について、「よくわかる」「どちらかといえばわかる」と回答した生徒は、全教科で75%を上回り、一所懸命に授業に取り組んでいる姿が浮かびます。

課題としては、学習の進め方で、全体として「計画的に学習すること」や「どうやったらうまくいくかを考えてから学習する」といった計画性、1年生では「できるまで繰り返し練習する」「問題等に取り組み、確実にできるようにする」といった学習習慣が十分身に付いていないこともわかりました。この調査結果は個人票を返却するので、自分の強みと弱みをつかんでください。

本校では、定期考査2週間前から、学習計画表で計画的な学習を進めたり、質問教室や補習をしたりしています。ぜひ、こうした取組にも積極的に参加しましょう。また、悩みごと等があったら話しやすい先生やカウンセラーに相談してください。

この2学期、「ただひたすらに咲く花」のように、豊かな自己実現に向けて努力を惜しまず、仲間とともに毎日の生活を充実させてほしいと願っています。

■ 全国学力学習状況調査結果（平均正答率%）

教科名	本校	東京都	全国
国語科	76	70	69.0
数学科	64	54	51.4
理科	55	51	49.3

この調査は、文部科学省が毎年4月、全国の小中学校の最上級生を対象に実施している学力調査です。本校の結果は、3教科とも国や都の平均達成率を上回っています。また、全教科にわたり無回答率が低く、粘り強く問題に取り組んだことが伺えました。課題としては、国語科では、資料の一部を引用し、自分の考えが伝わるように書く問題と語句の意味理解の問題、数学科では図形の証明問題、理科では静電気の問題、画像とデータから天気の変化を解釈する問題にやや課題がみられました。

生徒質問紙（意識調査）では、「自分にはよいところがある」が 70.8 ポイントで全国平均から8ポイント低く、「難しいことも失敗を恐れず挑戦する」が 56.8 ポイントで全国より 10 ポイント低かったことが残念でした。

■ 東京都 児童・生徒の学力の向上を図るための調査（意識調査）結果

この調査は、東京都が小学校4～6年生と中学校全学年の生徒を対象に実施している調査で、児童生徒の学びに向かう力等に関する意識や、学校の指導方法等を把握・分析して学習指導の充実や授業改善に活用することなどを目的としています。

（1）各教科の理解の程度

質問項目		国語	社会	数学	理科	英語
○○科の授業の内容がよくわかる・どちらかといえばわかる	本　校	91.3	75.5	89.7	89.1	83.4
	東京都	89.5	82.7	85.2	81.0	77.2
○○科の学習は得意・どちらかといえば得意である	本　校	47.8	39.8	59.9	59.9	54.8
	東京都	54.0	50.6	52.9	52.9	49.0

本校の生徒の特長として、文系より理系の教科を得意としている生徒が多いようです。

（2）学習の動機について （◎あてはまる　○どちらかといえばあてはまる）

質問項目	◎本校	東京都	○本校	東京都
1　分かることやできることが楽しいから	36.9	39.9	44.8	40.4
2　しっかり考えられるようになりたいから	37.4	40.6	41.7	40.7
3　将来の仕事や生活に役立つから	46.1	47.2	33.0	34.2
4　友達や先生と学習するのが楽しいから	23.5	27.5	37.4	40.2

学習動機については、都全体と大きな差は感じられませんが、コロナ禍で、協働的な学習が十分できなかった影響が「友達や先生と学習するのが楽しい」という項目に表れているように感じます。

（3）学習の進め方 （◎あてはまる　○どちらかといえばあてはまる）

質問項目	◎本校	東京都	○本校	東京都
1　難しいと感じる問題も最後まであきらめずに取り組む	24.5	26.5	44.4	42.7
2　どうしてそうなるのか理由を考えながら学習する	26.2	31.7.	47.8	45.3
3　分からないときは他の人や先生に質問して解決する	34.8	37.9	41.2	40.1
4　どうやったらうまくいくか考えて学習を始める	15.1	20.2	37.8	39.8
5　やってもできないときは学習方法を工夫している	18.0	22.9	40.6	40.4
6　テストで間違えた時、なぜ間違えたか考えている	29.8	36.7	42.5	40.1
7　できるまで繰り返し練習している	14.7	18.0	44.8	47.0
8　自分で計画を立てて学習している	23.9	28.9	37.2	38.0

学習の進め方については、粘り強さや理由などを考えながら学習する姿勢、語句や公式の意味を理解して覚えようとする積極性がみられます。課題としては、学習の見通しを立てることや柔軟に学習方法を工夫すること、テスト結果などで間違えた部分を振り返り、丁寧に復習すること等が十分でない生徒がいることがわかりました。今後、こうした調査の結果を活用し、生徒一人一人の学力向上や、自己有用感の向上に取り組んでまいります。ご理解ご協力をお願いいたします。